

## 鳥形花(オウム花)

高橋 美

2016年11月30日に登ったタイ国の標高3位のチェンマイ県チ  
ェンダオ山 2225mの登山道で奇妙な形の赤い花を見掛けた。花と  
言うよりまるでピンクの鳥が舞っているかのようだ。帰国して「鳥形花」  
と呼ぶこの花がツリフネソウ科と知ってなるほどと思った。茎の葉腋から  
長い花茎を伸ばした先に釣鐘状の花が釣り下がる。この花弁の先は  
唇状で2裂して濃いピンク色を呈し、尾翼にも翼にも見える。こ反対  
側が鳥の頭に見える部分で、「距」と呼ばれ、細長く伸びた距の先端  
が巻きこまれて、まるで嘴のようだ。学名が *P. sittacina* H. K. f.  
である。



鳥形花

日本の山地や里山でよく見かけるツリフネソウは葉腋から花茎を  
伸ばした先に釣鐘状の紫色の花を吊り下げる。花弁の先は唇  
状である。草丈は 70cm ほどになるが、葉が大きく花は草に埋  
もれ気味となり紫色が目立つものの地味な花といえよう。沢筋  
で見かけても私は意識して写真を撮った覚えがない。きっちり観  
察すると造形の妙といえる花で、造りがタイの鳥形花（オウム花）  
と酷似する。



ツリフネソウ: ネット引用

キツリフネはツリフネソウ  
の黄色バージョンで夏に  
湿った草地で良く見か  
け、同じく釣鐘状の花を  
吊り下げる。



キツリフネ: 写真はネット引用

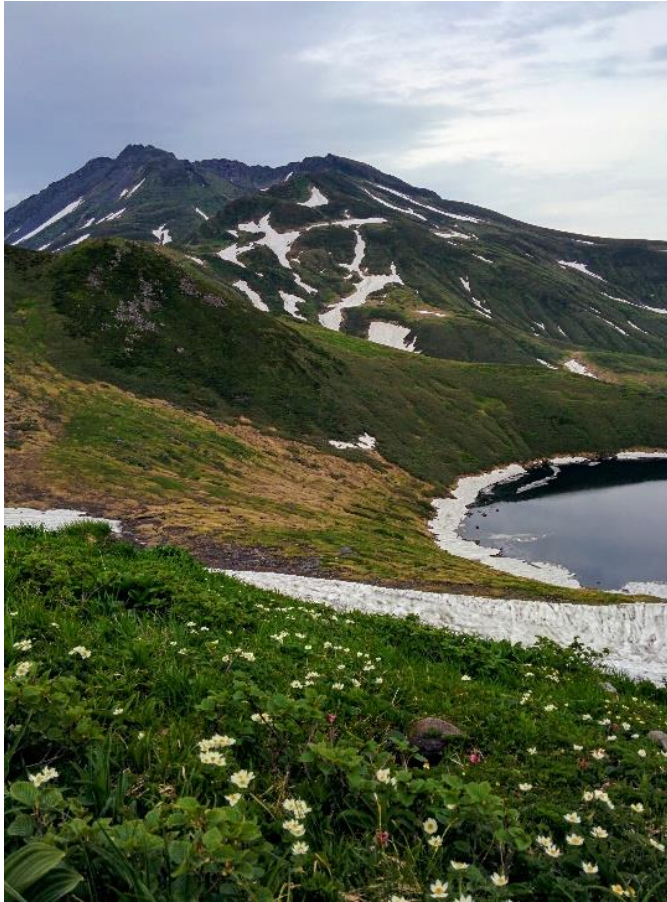


ハナツリフネ: ネットから

ハナツリフネはヒマラヤ地域原産で標高 5000m 辺りに夏咲くが、釣鐘状で、白  
っぽい唇状花弁の先はピンク色である。11月エベレスト街道カラパタル登山  
で咲き残った赤い花を見かけ「アッ！ ツリフネソウね」と素っ気なく通り過ぎた。これ  
が「ハナツリフネ」とは気づかなかった。ホウセンカも同じ科&属と知る。(了)

## 東北の花「ヒナザクラ」雛桜

矢沢 茂



東北の山にしか咲かないという「ひなざくら」、しかも雪が解けて間がない時に一齐に咲いてしまうと。そんな花だと知った上で、初めて会ったのは鳥海山でした。

6 月末の 山小屋も開いていない時期、雪渓の 雪解け直後に可憐に咲いた「ひなざくら」に出会いすっかりファンになりました。この時期は、華やかなハクサンイチゲやチングルマが鳥海湖に満開で素晴らしかったです。また岩にしっかりと咲くイワウメやチョウカイフスマ、ヒナウスユキソウ等 貴重な花々にも出会いました。



頂上から降りて来て泊まった御浜小屋の夜、すごい嵐となりこの小屋も飛ばされるのではないかと思う程でした。そんな中、翌日の下山時にもしっかりと生き残り、変わらず可愛い花を咲かせていた「ひなざくら」でした。

その後も東北の山々に行く度に会い、私にとって懐かしさを感じる花となりました。



## 高尾山の秋の花

内藤 彰

春先から花を楽しませてくれる高尾山。春は毎年のように来るのですが、秋はさほど来ません。10月に入って、どんな花があるのかわからないまま来てみました。



黄色い花はアキノキンソウ、  
山頂付近でよく見かけます。



白い花はノコンギク?リュウノウギク?  
どちらか教えてください。群になって咲いています。



赤い花はヒガンバナ、6号路の泥治いに咲いていました。



薄い青い花はセキヤノアキチョウジ (関屋の秋丁子)  
図鑑で見ると、赤紫色に見えるのですが、写真のものは青い  
色をしています。

## ハクサンシャジン(白山沙参)

渡辺 綺

今年の夏、8月初めに月山・鳥海山で出会った可憐なお花です。

色とりどりのお花が咲き乱れるお花畑の中でひととき群生して存在感いっぱい。目を引きました

【特徴】キキョウ科。

平地で秋に咲くツリガネニンジンの高山型

月山・鳥海山 秋田駒 焼岳など東北の山に量が多く、開花時期は7月～8月です

花言葉は、詩的な愛・誠実・優しい愛情？だそうな・・・



薄紫色の清楚なお花



鳥海湖近くのお花畑で

## 花の宝庫「入笠山」 1,955m

横山 登

2019年6月22日～23日、入笠山へ花見に出かけた。富士見駅から富士見パノラマリゾートまで無料シャトルバスが出ている。

入笠山は花の宝庫、6月中旬ごろ見頃なのがレンゲツツジ、アヤメ、ペニバナイチャクソウ、ゴゼンタチバナ、日本スズランやドイツスズランで、特にこの時期、主役は日本スズランの他、幻の花「釜無ホテイアツモリソウ」である。



釜無ホテイアツモリソウは野生での絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧類に属している。



入笠山は花の宝庫のほか「日本百名山」のうち22山も望める素晴らしい山なのである。訪れた時には中央アルプス・北アルプス・槍ヶ岳まで望む事ができた。

## 「クモイコザクラ」雲居小屋 奥秩父十文字小屋にて

福井 真

2019年5月26日にシャクナゲの花を見に十文字小屋に行きました。お目当てのシャクナゲは1週間早く、まだ、蕾の状態でした。



貸切状態の小屋のお蔭で小屋番さんに、色々と話をしていただき、小屋の後ろの庭に入れてもらう事が出来ました。歴代の小屋番さんが色々植えた植物があり、名前が判らないものもあるそうです。その中にピンクの可憐な花をつけていたのが「クモイコザクラ」です。



クモイコザクラ（雲居小桜）滅危惧Ⅱ類秩父山地、南アルプス、八ヶ岳の亜高山帯～高山帯の岩壁に生える。コイワザクラの変種でよく似ているが、本種の方が葉の切れ込みが深く、裂片が尖ることが相違点とされている。

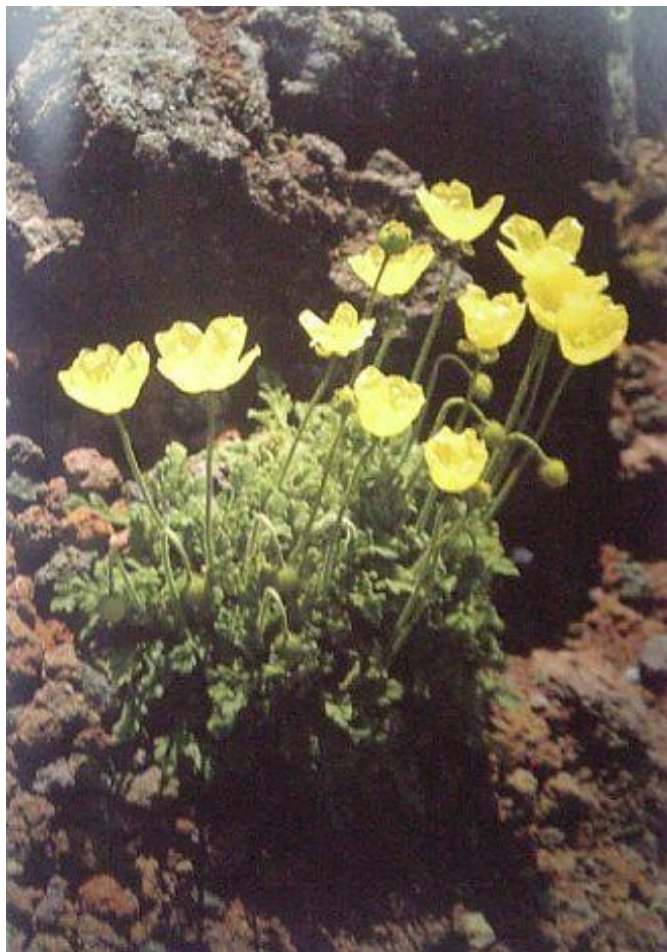
「葉」と言えば、当会の元会長の井上さんが「植物を撮る時は、花だけでなく葉も必ず撮るのよ」と言った事を思い出しました。十文字小屋と言えばシャクナゲですが、私にとってはクモイコザクラかも知れません。



# 「リシリヒナゲシ」 利尻雛罌粟

今岡 朋

2018年6月末、礼文島の花が一番良い時に利尻山のツアーに参加しました。登山口でガイドさんから『今日はリシリヒナゲシに会えるかもしれません。』と告げられました。天气に恵まれた9合目からしばらく行くと、その花は見逃して仕舞いそうなほど小さく、火山崩壊礫の斜面に姿を見せてくれました。



山頂から戻った時には、薄くわずかに緑がかった黄色のはなびらを開いてくれました。『世界でこの山にしか咲かない利尻山の固有種です。』利尻山の山頂は、崩れてなくなってしまうのではないかと、心配するほど崩壊が進んでいました。リシリヒナゲシも、40年以上前には、礫地が黄色く見えたほど群生していたのに、今では絶滅危惧種1B類に指定されとても心配です。

ガイドさんが昨年夏に、NHKの『につぼん 百名山 利尻山』に出演しました。ビデオを繰り返し見て、リシリヒナゲシを楽しんでいます。



# 「イワヤツデ」

和久井 君



私の山歩きは、お休み状態となりました。

陽気がいいので向島百花苑にぶらーと出かけてみました。

30年前に日帰り旅行先だったことが思い出されました。春夏  
秋冬花が咲き樹木も楽しめます。飽きずにぐるぐる見て回りました。  
名前札も丁寧に立ててあり私にはありがたい植物園にでした。

◆中国北部から朝鮮半島原産の多年草。名前の由来は、溪谷の岩場の湿った場所に自生し、葉の形が八ツ手に似ることから。草姿を丹頂鶴に見立ててタンチョウソウ（丹頂草）の別名がある。3-5月に花茎の先に集散花序をだし、白色の5弁花を多数つける。葉には長い柄があり、葉身はヤツデの葉のように掌状に深く裂ける。観賞用に栽培される。



英名	Mukdenia
別名	タンチョウソウ（丹頂草）
原産地/原生地	中国北部、朝鮮半島
花期	3月-5月
草丈	20-40cm
環境	山地/岩場
種別	栽培
花言葉	愛嬌



## 「春の妖精」と「高山植物の女王」

山田 和

多くの人に、山で植物の名前をいろいろと教わったのですが、出来の悪い私はすぐ忘れてしまいます。そんな私でも忘れられない花が...

奥多摩 御前山のカタクリと、北アルプス 燕岳のコマクサです。



2018.4.22 安達さんが奥多摩 御前山で撮影したカタクリの花です。

◆カタクリは、春に先がけて一斉に紫の花を咲かせ、他の草木が勢よく生い茂る初夏には早々と地上部を枯らして休眠に入ってしまうことから、「春の妖精」と呼ばれます。紫色の花と花姿が忘れられません。

うつむいて咲く花姿から花言葉は、「初恋」「さびしさに耐える」片栗粉は、もともとこの植物の球根から抽出したデンプンの粉。でも現在では、ほとんどがジャガイモやサツマイモから抽出されています。

◆コマクサは、他の植物が生育出来ない厳しい環境で、砂礫地に長く根を伸ばし生育する事から「高山植物の女王」と呼ばれます。単独の大群生は圧巻で、まさしく女王の名にふさわしく感動します。

花言葉は、「高嶺の花」「誇り」「気高い心」「貴重品」

◆自分の誕生日 9月13日の誕生花は、「ゼフィランサス」・「ブッドレア」

ゼフィランサスの花言葉

「汚れなき愛」「便りがある」「期待」

ブッドレアの花言葉

「春の予感」「あなたを慕う」

花の名前を聞いても姿も浮かびませんし、名前も覚えられませんが・・・自分にとってもふさわしい花言葉です。???

皆さんも、自分の誕生花を調べてみませんか!!!



2005.7.17 14年近く前に私が北アルプス唐沢岳で出会ったコマクサの花です。

花ごよみ No.87

# ギンリョウソウとイワウメ

清水 梅

名 前 ギンリョウソウ  
和 名 銀竜草  
科目名 イチャクソウ  
属 名 ギンリョウソウ  
分 布 北海道・本州・四国・九州  
生育地 山地の林内  
分 類 腐生植物  
花 期 6月中旬～7月中旬

山地の林間に生える腐生植物。茎は直立した円柱状で、葉はすべて鱗片になり、10～20 個互生します。茎の頂部に筒状鐘形の花を 1 個だけ下向きに付けます。葉緑素がなく腐敗したもから栄養分を取ることによって生活する植物です。

何年前に鳳凰三山で見つけたと思いますが、初めて写真を撮って記録したのは2018年夏ごろの御岳山でした。写真はインターネットの転載です。



名 前 イワウメ  
和 名 岩梅  
科目名 イワウメ  
属 名 イワウメ  
分 布 北海道・本州(中北部)  
生育地 高山の岩礫地  
分 類 常緑低木  
花 期 6月下旬～7月

高山帯の岩場に生える常緑小低木。枝は地上を這い、厚い光沢のある卵形の葉が絨毯を敷きつめたように付きます。枝先に梅に似た花を上向きに咲

かせます。花冠の先は 5 裂し、雄しべが 5 本あります。花のないときには目立たない植物です。葉は小さな卵形で革質で光沢がある。白い花は鐘型、花弁の先は 5 裂し梅の花に似ている。夏山縦走が好きの私は中央アルプスの山で見たことがあります、山名は覚えださないですが、今年の夏も岩梅と出会ってほしいです。

## アケボノソウ (曙草・リンドウ科センブリ属)

高橋 美

「アケボノソウ」の由来は花びら先端の斑点を夜明けの星空に見立てたことに拠る。最初に見たのは 30 年前の鹿沢休暇村のゲレンデ草地で、かの紫斑点はいかなる進化の過程で創造されたのかと思ったものだ。5 裂した花びらに描かれた丸い緑色文様は蜜腺で昆虫を引き寄せる。雄蕊の紫色の葯は虫に取られて無くなる。秋に山地に咲く 2 年草で茎の断面はシソ科と似て四角い。



アケボノソウ 2018.9.8 入笠山



センブリ 2018.10.6 高尾山～一丁平

「センブリ」は秋口に咲く 2 年草で、千回煎じ（振り出し）でも苦みが残ることからの命名だ。苦味健胃薬として昔から重用される。

蜜腺は雌しべの脇にある。花びらは普通 5 枚で紫色の縦筋がある。

「ムラサキセンブリ」は生石山でススキが豪快に揺れる野原で見た。



ムラサキセンブリ 2013.11/5 歌山生石山

2008 年 7/30、杓子岳から白馬鎗ヶ岳に向かう斜面の足元に 1 株だけひそやかに咲く茶紫色の地味な花を見掛けた。「何だろう」。天狗山荘の食堂に掲げられた写真で「ミヤマアケボノソウ」と知り感激した。網膜に焼きつけておけばと思っていたから写真を撮っていない。いずれも絶滅危惧種の範疇にある植物です。八方尾根には固有種の紫を帯びたハッポウタカネセンブリがあるという。見かけた方は教えてください。

## 北海道のお花畑

石川 友



見渡すかぎりのチングルマ

「山の花」の記憶というと、なんといっても、北海道の山の圧倒的なお花畑の広がりがいかに浮かぶ。北海道の山のお花畑は、本当に「ハンパじゃない」。写真は、2016年7月末に大田ハイキングクラブで行った北海道・トムラウシ山のお花畑だ。

この年の北海道は異常に天気が悪くて雨続き。私が行ったときも連日の雨と霧で、ほとんど山は姿も見えず、靴は濁流となった登山道のなかでグシ濡れだった。

でも、足元を見ると、花・花・花のオンパレード。なにしろ、北アルプスなどはまったくスケールがちがう。それこそ一面のお花畑だ。コマクサも、最初に出てきた時は「あ！コマクサだ」と喜んでしたが、あっちにもこっちにも、いたるところに咲いていた。

う～ん、やっぱり北海道だな～。雨と霧の中を3日間歩き続け、本来ならさんざんの山行だったはずだが、このお花畑のおかげで、思い出深い山行となった。



コエソツガザクラ？もみずみずしい



これでもかこれでもかと咲くコマクサ

## ランタナ

山崎 隆

最近、仕事の関係でなかなか美しい山を歩き機会が減っている。

しかし、花はあらゆるところに咲いている。それを見るか見逃すかは意識次第かもしれない。僕も普段はなかなか街に咲いている花を見るほど余裕があるわけではない。でも、ふと立ち止まるとき綺麗な花が山だけではなく、どこにでも咲いていることに気づくときがある。

最近見かけた花はランタナという花。これも近くの公園に咲いているものだが、あまり見かけることもない花だ。ランタナはどうも南国の花のようで、確かに山の中で自然に咲いている花とは全く思えない。しかし、同じ色だけに染まった花ではない、様々な色で咲いている花には不思議な魅力がある。



いわば七変化のように花の色が変化するようだが、私たちの人生も同じように七変化すると結構楽しい、時にはつらい時もあるかもしれないが、変化も楽しむような生き方ができるほど豊かになるのではと思う。

## コケ

波田野 亜

6年前娘が5歳のとき、北八ヶ岳しらびそ小屋に向かう道中、コケのことをかわいいかわいいと言ったのをきっかけに親子そろってコケの魅力に目覚めてしまいました。



コケ植物は簡単な体のつくりの原始的な植物で、シダ植物と同じように太古の昔に地球上に登場したと考えられています。コケは生き物の大先輩です。



根、茎、葉の区別はなく、根のように見える部分は体を固定するための仮根といわれるもので、根（仮根）から水分や養分は吸収していません。水分や養分は体全体で吸収していて土を必要としないので、岩、木の幹、倒木、屋根、コンクリート、ロープに生えているものまで、色々な場所に生えています。

多くの種類が基本的に湿度の高いところが好みなのですが、森の中でコケを見ていると種類によって生育場所が

違うことが良くわかります。地面にしか生えないもの、岩の上にしか生えないもの、倒木を好むもの、個性があります。

そして、触り心地も色々です。山に行きコケを見かけるとなでなでなでなで・・・。

私はしっとりしたミスゴケの類、娘はモシャモシャしたカモジゴケがイチオシです。



## 白玉の木の実・りんどう・秋の麒麟草

三戸 潔

会報 10月号の「花ごよみ」を担当するにあたり、取材山行として予定した7月の白山、8月の集中山行赤岳がいずれも雨で中止となり、10月5日からの安達太良山山系鬼面山～箕輪山山行に最後のチャンスを掛けることとなった。いつもは他人任せのカメラをザックに装着し、勇んで取材宣言を行うも「この季節に花なんて無いわヨ」との厳しいお言葉に戸惑いながら山行を開始した。結果、なんとか「白玉の木の実」「りんどう」「秋の麒麟草」の花を見つけ、カメラに収めることが出来た。

「白玉の木の実」は白い花に見えるが実は花の実で、通常茶色が多い実の中で白色の実をつける珍しい実である。取って潰すとガムのような匂いがするとのことであったが私には解らない。やはり老化現象か？

「りんどう」はお馴染みの紫色の花が至るところに咲いていた。

「秋の麒麟草」は山行中、この一輪だけ見つけた黄色が鮮やかな花である。隣に落ちていた「ナナカマド」の真っ赤な実との色合いがピッタリであった。

「花より酒・団子」派の私にはこれ位しか書けないが、今回の山行では花はハナでも秋山の“華”紅葉が素晴らしかった！！

全山紅葉に燃える鬼面・箕輪山の写真を添付して「花ごよみ」の記事と致します。



## チョウジギク(丁子菊)

瀬畑 美

今から、3・4年前お花畑に魅せられて4回程夏と秋の白山に登りました。天気に恵まれたのは数回でしたが、思い出深い登山でした。小雨の中朝露に煙るヨツバシオガマ・カニコウモリ等の沢山のお花達が迎えてくれました。ハクサンウサギ・ハクサンマイマイにも遭遇しました。南竜ヶ馬場に立ち寄った時、ビジターセンターで丁子菊の話を見ました。



丁子菊に興味があり、秋に白山に登りました。帰り南竜ヶ馬場まで足を伸ばしましたが、残念ながら花の時期は終わっていました。いつの日か見てみたい花のひとつです。

本州、四国に分布し、深山の多湿の斜面などに自生する。

茎は、高さ20-85cm、上部は縮れ毛が密生。葉は茎に対生し、形は長楕円状披針形で長さ12.5cm。

葉柄はなく、基部は茎をとりまいて短く鞘状になり、縁は鋸歯状になる。花期は8-10月。頭花は径1.5-2cmで、茎の先端に6-9個散房状につけ、横向きに咲く。花柄は長く白い毛が密生する。





## 彼岸花

安達 貴

別名、曼殊沙華とも言います。



奥武蔵の埼玉県高麗川の  
巾着田曼殊沙華公園で9  
月に撮った写真です。  
公園では彼岸花が一面に  
広がり、真っ赤な絨毯のよう  
でした。  
公園内に流れるU時に曲が  
りくねった高麗川の対岸は  
天覧山へのハイキングコース  
高麗峠に通じています。

以下、wiki の情報ですが、  
小ネタです。



彼岸花の名前は、秋の彼岸(ひがん)のころに開花することに由来していま  
す。別名の曼殊沙華とは響きの通り、サンスクリット語のマンジューシャカ  
majaka、パーリ語のマンジューサカ majsaka/majussake の音写だそう  
です。



アルカロイドを多く含む有毒植物。経口摂取すると吐き気  
や下痢を起こし、ひどい場合には中枢神経の麻痺を起こ  
して死に至ることもある。トリカブトもアルカロイド主成分の  
有毒植物ですね。

有毒ゆえ、恐ろしい異名もあるそうです。

死人花(しびとばな)、地獄花(じごくばな)、幽霊花  
(ゆうれいばな)、蛇花(へびのはな)、剃刀花(かみそ  
りばな)、狐花(きつねばな)、捨子花(すてごばな)  
お墓に植わっていることの多い彼岸花は除虫の効果もあ  
るそうです。

# ヤクシソウ (薬師草・キク科オニタビラコ属)

高橋

秋が深まりゆくころ登山道に入ったばかりの歩きで、あるいは標高をだいぶ下げ林道歩きになる頃、鮮やかな黄色のキク科植物の一叢が目に入ったら、それは「ヤクシソウ」でしょう。舌状花をもち、草丈は30~80cm。



年を越してからも結実して綿毛がしっ

かり残っている花ですから越年草(二年草)と言えるでしょう。綿毛を付けた実が、風に吹かれ飛んでいきます(2015年1月鍋ハイク大野山で撮った綿毛の写真が見当たらず、右写真はネットから拝借)。

かつて民間薬として乾燥した頭花を油漬けにして腫れ物に塗布したそうです(有効成分:酢酸ゲルマニシイルなど)。ツリガネニンジンと同じく茎を折ると白い乳液がみられます(別名チチクサと呼ばれる一因)。



キク科のタンポポやオニタビラコ(春の七草で古名ホトケノザ)と同様に若芽を茹でて晒して、おひたしや油いためにして食べることができます。労働者だった頃の私は職場の4月健康診断で港区新橋にある慈恵医大に出



かけましたが、一面タンポポの咲く更地をみつけ、毎年ロゼット状の蒲公英の若葉を一握り摘んでお浸しにして春の息吹を食すのを楽しんでいました(日比谷通り沿いの繁華な土地で獣糞はなかった)。ヤクシソウも根生葉や冬越しの葉を可食できます。どんな香なのか、どのくらい苦いのかしら、ちょっと気になります。(了)

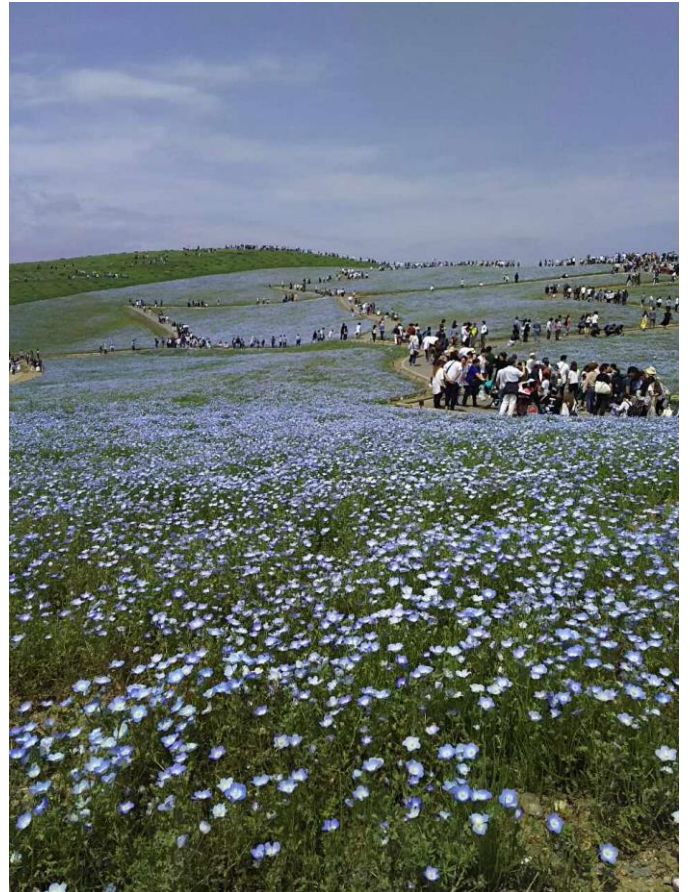
## 「ネモフィラ」

川田 晃

今年の 5 月ゴールデンウィークに茨城県ひたちなか市の国営ひたち海浜公園の丘いっぱいに咲く青い花「ネモフィラ」を見に行きました。450 万本の花が咲き誇り、写真のように丘陵の一面が青色で染まっていました。



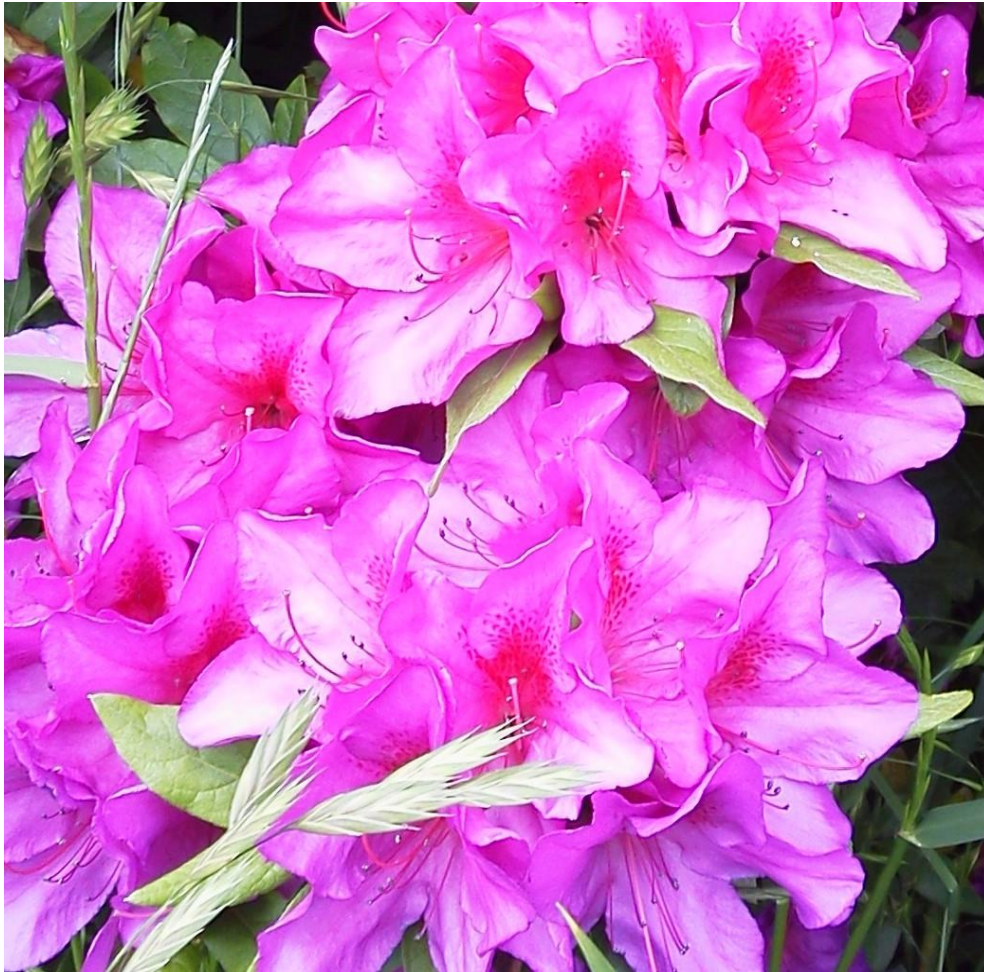
ネモフィラ属は、カナダ西部からアメリカ合衆国西部、メキシコにかけてとアメリカ合衆国東南部に分布。耐寒性一年草。草丈 10-20cm。花は 4 月-5 月に開花し、花径 2cm くらいで、白に空色または青紫色の深い覆輪で、中心部に黒い点が 5 つある。



日本一のネモフィラ畑「みはらしの丘」があるのは、茨城県ひたちなか市の「国営ひたち海浜公園」。「青の絶景」や「空と繋がる丘」として各メディアでも紹介された日本の絶景の 1 つです。一面が瑠璃色！どこまでも続くネモフィラの光景は、まるで映画やドラマのワンシーンのよう。丘の上で青空につつまれて眺めるネモフィラ畑はまさに絶景。夢のような景色に感動せずにはられません。(国営ひたち海浜公園：提供資料)

「つつじ」

飯嶋 龍



今年つつじ、早く咲き、早くも終わってしまいました。

だいぶ前に5月の八潮緑道公園で撮りました。雨のあと、抽象画のように咲きほこって見事でした。

## 熊野本宮大社の桜

得津 輝

先日の3月下旬、さんかくてんで熊野古道に行って来ました。

高野山から熊野本宮大社まで85kmにも及ぶ、3泊4日の修験道歩きです。

いくつもの峠を越えて、やっとの思いで熊野本宮大社に着いた時は、感慨深いものがありました。

その時、社殿前の庭に咲き誇っていたのが、この熊野桜です。

ちょうど和歌山も桜の満開の時期を迎えていたのですね。



左の写真はスタートの丹生都比売神社に向かう車窓から見た故郷の母なる大河 紀ノ川と桜です。右は高野山へ

## “景信山・高尾梅郷で出会った花木たち”

関山 聡

先日 3/11(日)、Mさんと二人で景信山に行ってきました。高尾梅郷の花見山行の下見に出かけたのです。Mさんは涙目をして目の周りを赤くして、鼻水を垂らしてやって来ました。花粉アレルギーの症状が出ているのです。今回の花ごよみでは、この山行で目にした花木をとりあげたいと思います。



高尾駅北口はいつもながらの多くのハイカーで混雑し、臨時便がたくさん増発されました。小仏バス停までの車窓からは、何か所かで開催している梅まつりの様子が目に写りました。そして、その中に紅梅や白梅に混じってマンサク(満作/万作)や三桠(ミツ



マタ)を見つけました。植物図鑑によると、マンサクの名の由来は①早春、他の花に先駆けて「まず咲く」ことから、②枝いっぱいにつける、③花の様子が豊作を祈って踊る姿に似ている・・・などの諸説があるようです。先月、宝登山で見かけたものとは花と花木の形状と色が大きく違っています。品種も多いようで、はじめサンシュユと間違っていました。



三桠は3月から4月ごろにかけて、三つ又に分かれた枝の先に黄色い花を咲かせる。ジンチョウゲ科に属し、花はボンボンのように密集して咲き、良い香りがあり、和紙の原料となる。三桠の花は当会の山ガールたちにも人気の花で、毎年のように三桠を見る山行が計画されるが、今年は計画がなく残念です。

小仏峠に下山する杉林の中で僕たちは花粉に襲われました。花粉が降り注ぎ辺りが霧がかかったようになりました。花粉症の Mさんは更なるダメージを受け、顔のほてり、体のだるさも加わりながらも、目のかゆみを我慢し鼻水を垂れ流しながら、木下沢梅林へひたすら歩みを進めました。



会場は昨日から梅まつりが始まり、1分から2分咲の梅林には多くの観梅客が訪れていました。園脇のベンチで休み、Mさんはコーヒーを淹れ、桜餅をふるまって下さいました。至福の時です。今日ほど梅花が素敵でかわいく感じ

たことはありません。帰路は、大井町で「下山してけふのけじめのビールかな」。Mさんの症状はアルコールで更に悪化し、一晩中鼻水を垂れ流し続けたとか! ご用心!

花ごよみ No.75

「ドウダンツツジ」

渋谷 恵

幼少のころ（65 年前）、家の近所のお屋敷の生け垣が春になると、スズランに似た小さな白い花を沢山つけてともかわいらしく、学校の行き帰りにぐるりと一回りして楽しんでいました。花の名前も知らないで年月を重ねてきました。

さんかくてんに入会して、どなたに教えていただいたか忘れてしまいましたが「ドウダンツツジ」を知りました。

元々記憶力が弱いので直ぐに忘れてしまうのに又花がつつじらしくないのでどう記憶しようかと迷い思いついたのが どうだ！つつじ これならよし、忘れないだろうとどうにか私の脳に定着しました。

春の花も好きですが真冬の小さい枝に少し膨らんだけなげなつぼみ達を見ると嬉しくなります。花言葉を調べると 節制・返礼・上品・愛の喜び・かわいい人・私の思いを受けて・素直な告白 と色々ありますがその時々で好きな花言葉を引用してみます。



スズランのような愛くるしい白い花を沢山付けるドウダンツツジです。



皆様が本州の初夏の山々を登山中で見かけるサラサドウダンツツジです。

花ごよみ No.74

「ハクサンイチゲ」

キンポウゲ科イチリンソウ属の多年草

長谷川 順

昨年の8月に初めて東北の山「月山」に登りました。

出羽三山のひとつであり、白装束の登山者とすれ違いながら、強風にあおられて頑張ったのぼった山頂直前で、健気に咲く可憐な姿にほっと癒されました。

漢字では「白山一花」と書きます。「白山」は、石川県の白山で発見されたことにちなみます。「一花」は1本の花茎に1つの花が咲くという意味です。でも白山以外でも見られ、たくさんの花を咲かせます。



草地や岩場に生え、えりまきのような葉の上に、3、4センチの数個の花が花束のように咲きます。

草丈は足首からひざ丈くらいで、花びらのように見えるのは萼（ガク）です。

花びらが八重のものや花びらが緑っぽいものもあるそうです。

花言葉：「幸せを招く花」

今年もたくさん招いてほしいですね（笑）